理科(物理･化学･生物･地学)　　神戸大学（前期）

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式
記述・論述・選択・描図・計算

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点
大気海洋分野が出題されず，地質分野が出題された。

その他トピックス
受験生にとって気の毒であった昨年度と比べ計算問題や論述問題の分量が減少し，問題全体の分量が受験生にとって適当になったと言えるだろう。
会話文形式の問題文が出題された。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･ﾃｰﾏ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記述 論述	地質図	地学	問 2 のセメント化作用は，教科書によっては膠結(こうけつ)(セメンテーション)と表記されている。苦戦した受験生がいるかもしれない。 岩体とするべき安山岩が地層扱いされているが，問題を解くのに影響はないだろう。	やや易
Ⅱ	記述 選択 描図 計算	固体地球	地学	問 3(1)は，地震計 A～C の全てが上盤にあること，震源を通り断層面に垂直な直線より上にあることに留意して描くこと。 問 3(2)は，正三角形の高さや直角三角形の辺の比で考えることができると気づけば，一段と楽に答えにたどり着けるだろう。	やや易
Ⅲ	記述 論述 計算 選択	太陽系	地学	問 2 は，やや細かい知識を問うている。教科書などに十分目を通していないと厳しかったかもしれない。 問 6(2)は，赤道で地表面速度が最大になることを明記しておくべきだろう。 問 7(2)は，覚えているならば太陽や地球の放射エネルギーの最大波長と表面温度の関係から理由を説明してもよいだろう。	やや易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

神戸大学の地学の特徴は論述問題の比率の高さにあるが，計算問題も確実に出題される。教科書に載っている公式が出題された場合に備え，計算練習を繰り返して正確性を高めるようにしよう。また，有効数字の指定にも注意が必要である。
もちろん空欄補充などの記述の形式の問題も大事である。全問正解して得点の取りこぼしが発生しないようにすべきである。教科書などにしっかりと目を通しておこう。
そして，論述問題こそが得点差がつく問題である。問題を数多くこなし，素早く文章化ができることを目指そう。

© 河合塾　2023 年